

ジェットコースター
ラブロマンス男女
4人組 平屋の
小屋で乱交

それはネオン舞う大都会のとあるロマンスである。

首都高速を猛スピードで走る白いワゴン
は、
インターチェンジを過ぎてとある店の
駐車場に停まった。

「これからおもちゃを買うのよね」

リノハは手をつないだりりナに囁いた。

電灯が闇夜を照らしている。

都会の片隅。午前2時の夜は少し肌寒く静かだ。

遠くにホテルの明かりが見えている。

店内は静かだった。

丸坊主の青年が店員をしていた。

打ち合わせ通り、

4人は籠に半分くらいのおもちやを購入する。

みんなでエッチなことをするためだ。もちろん。

すぐさまホテルへ向かった。

・・・・・・・・・・これはジェット
コースターのような男女のラブロマ
ンスである。

人並みの、けど少し重たい

過去を抱えた者同士の・・・・・・・・。

出会ったのは川沿いの遊歩道だった。

・・・・・・・・ここから飛び降りたら・・・・・・・・

5メートルほどのコンクリートの壁。
リノハは立って風に吹かれていた。

そのベンチは川とその向こうを見渡せるようになっていた。
しかしすぐ前は崖。

落ちたらただでは済まない。

・・・・・・・・・・その言葉を聞き逃すこと
とはなく、

通りかかった男性のユウゴは

受け止めた。

死と向き合うくらいつらいのなら……。

・・・・・・・・リノハには唯一心を許せる
友人のリリナがいた。

出会った男女たちは色々なことを話し
合って心を通じ合わせる・・・・・・・・。

スナックの仕事に、

人間関係

やっていたドラッグを止める。緊急入院。

数々の起伏を経て、

4人は物語を繋いでいく。

そして今、ワゴンは丘のホテルへ向かっている。

5ヶ月前を思い出していた。

.....誰もいない公園に寝そべり

真夏の汗を流したことを・・・・・・・・。

「私たちにとって、残されたものってこれしかないよね」

リノハとリリナは股を大きく広げ並んでいる。

素っ裸でお尻に汗ばむ液体によって砂粒をいっぱいつけて。

男2人、ユウゴとタイキはそれを夢中で食べ物のように舐めずする。

二人とも一度はあきらめた人生。

リノハとリリナの体によって1年間でもともと大きかったその巨根は更に20センチも大きくなった。

今ではブリーフパンツに収まりきらず、

特注を通販で買ってもそれですら対応できないため、

今ではもはや下着を穿いていない。

公園での4Pは、

4人が愛を知るきっかけであった。

セックスの奥底を知った。

・・・・・・・・それは恐ろしいものでもあった。

素知らぬ顔でこの夜もホテルに向かう。

互いにその深層は目視することをしなくなっている。

だから会話は

「昨日のテレビのあのアニメさ、すご
く面白かったよね」

(体験版は以上になります。ご読了あり
がとうございました)